科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号: 34534

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2019~2023

課題番号: 19K02658

研究課題名(和文)最近の子どもの発達はますますアンバランスになってきているのか?

研究課題名(英文) Is the development of recent children increasingly delayed or unbalanced?

研究代表者

郷間 英世 (Goma, Hideyo)

姫路大学・看護学部・教授

研究者番号:40234968

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、日本の子どもの40年間の精神発達の変化の特徴を明らかにすることを目的とした。方法は2020年までに収集された3200の発達検査の資料の年齢別通過率や50%通過年齢を算出し過去のデータと比較した。その結果、多くの課題では変化がなかったのに対し特定の領域は促進または遅延していた。例えば「色の名称」課題では約12か月の促進が、「図形模写」課題では11か月、「折り紙」課題では6か月の遅延が認められた。結果を研究論文や国際学会で報告した。また、2022年より変化の要因の究明のためヘルシンキ大学と共同研究を行っている。さらに、子どもの発達研究について著書にまとめ2024年夏出版予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究では、我が国の子どもの40年間の発達の変遷について、多くの発達課題では変化が少ないのに対し、特定の発達課題では発達の顕著な促進が、別の課題では顕著な遅延が認められた。これらの結果は、子どもの生活習慣や養育環境の変化によるものと考えられ、これからの子どものより良い成育環境を構築していくための政策を考え実施していく際の、大きな根拠となると思われる。また、変化の要因について、早急に詳細な究明が必要と考えられ、今後行っていく予定である。

研究成果の概要(英文): This study aimed to investigate the developmental trends and changes in Japanese children over 40 years. Data were collected using standardized testing materials. Individual assessment data were gathered for 1026 and 1655 children, aged 1~13 years years old, from 1983 and 2020, respectively. We compared the "50%-passing ages" for each of the 115 items in both samples. Results are as follows. Many test items demonstrated minimal change; however, several items in various developmental areas reported remarkable acceleration, while others showed conspicuous delay. Particularly, for naming the four colors development was found to be accelerated by 12 months. However, development of the origami tasks by 3~6 months and development of copying figures had been delayed by 9~11 months. These developmental changes were attributed to rapid social and nurturance environmental changes. It may be essential to observe and understand these changes and support them better in the future.

研究分野: 小児神経

キーワード: 子ども 発達 発達障害 環境 養育 発達促進 発達遅延 発達の変化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究の背景

社会の諸構造の急激な変化と貧困や虐待など社会病理が目立つ環境の中で、現代は子育て・子育ちが難しい状況にあるといわれている。子どもたちの様子を見ると、落ち着きのない子ども、容易に困難さから回避する子ども、容易に「キレる」「ムカつく」など短絡的行為を示す子ども、感情の不安定さや衝動コントロールの弱さを持った子どもが目立ってきていることは、かなり以前からいわれているが改善される気配はない。また、通常学級に在籍している発達障害児の割合は文部科学省の調査で 6.5% (2012)(2022 年の同調査では 8.8%と増加)であり、低学年ほど高い割合を示している。

このような状況の中、子どもたちの発達の詳細な実態やその変化、変化の原因などについて継続的になされている研究はほとんどない。それは子どもの発達や行動について一定の方法と尺度で長期にわたり評価していくことが困難であるためと考えられる。しかし我々は、新判K式発達検査の標準化資料を用いてこれまでも継続して行ってきた。

2.研究の目的

- (1)発達検査の標準化資料を用いて1983年、2001年、2020年版の標準化データを比較し、子どもの発達の変遷を明らかにすることを第1の目的とした。
- (2)変化が認められた場合はその要因について検討することを第2の目的とした。
- (3)研究成果を本にまとめることを計画し第3の目的とした。

3 . 方法

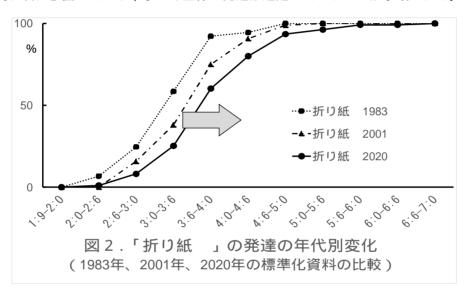
- (1)新たに加わる2020年の3200余りの標準化資料のデータは、まず、発達検査の各課題について、年齢別通過率(各年齢ごとの課題に合格した割合)や50%通過年齢(半分の子どもが合格する年齢)を求める。次いで、過去の年度の標準化資料のデータと比較し、1983年以降の子どもの発達の変化の全体的特徴を検討する。また、1983年から2001年にかけて発達の遅延が著しかった発達課題である「描画」「身体各部」「左右の弁別」「絵の叙述」などの項目や発達の促進が目立った「色の名称」の項目について、2020年の子どもではどのような変化がみられるのか検討する。
- (2) 養育環境や生活環境を調査し、発達に影響を与える要因を検討する。
- (3)研究成果の出版計画を立て、本の発刊を目指す。

4.研究成果

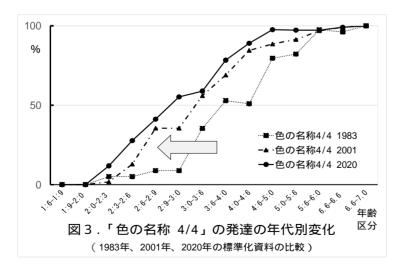
(1) 1983 年から 2020 年までのおよそ 40 年間の子どもの発達は、全体的にみると大きな変化はなかったが、いくつかの発達課題で顕著に促進した課題や遅延した課題がみられた。促進したのは「色の名称」課題で4つの色を答える検査項目では12ヵ月の変化がみられた。遅延した

のは「図形模写」や「折り紙」課題であり、「正方形模写」「三角形模写」「菱形模写」では9~11 カ月、折り紙を何回か折る検査項目である「折り紙」「折り紙」では3~6ヵ月の変化が認め られた。

折り紙について、詳細に述べると、正方形の折り紙を 2 回折って 4 分の 1 の大きさの正方形にする「折り紙」は 1983 年から 2020 年の約 40 年の間で 4 か月 , それをさらに対角線で折り直角三角形をつくる「折り紙」は 6 月遅れてきていた。そのため , 今回「折り紙」「折り紙」の検査用紙での配置が 2001 年版より一つ右側の高い年齢域に変更された。「折り紙」の約 20 年おきの年齢ごとの通過率のグラフを図 2 に示した。グラフは 1983 年から 2001 年 , 2020 年へ経年的に右に移動しており , 子ども全体の発達が遅延していることが示唆された。



一方、赤、青、黄、緑の4つの色を見て、色の名称を答える「色の名称」課題は、発達が一貫して促進してきている課題で、40年間の間に12か月促進していた。この課題の年齢別通過率の変化を図3に示した。



これらの発達の変化は、社会環境や養育環境などの急激な変化に伴い、子どもの認知や運動 の発達が変化してきたことが推測された。この変化をどうとらえ、どのように対応していくか は今後の課題である。

(2) ヘルシンキ大学との共同研究。

これまでの検査結果についての新たな分析方法について、ヘルシンキ大学の Karri Silventoinen 教授に 2022 年に相談し、その原因としての環境要因、生活習慣の要因について、ロジスティック分析を用いて共同研究を行うことになった。現在その結果の一部が出始めたところであり、現在進行形である。

(3)書籍の出版

2023 年に我々の本研究の研究成果も含め、「新版 K 式発達検査による子どもの理解と発達支援』(編者 郷間英世・清水里美」の出版を計画した。現在 12 人の原稿が集まり、校正中である。 2024 年 8 月にナカニシヤ出版(京都)より発刊の予定である。

研究組織

研究代表者 郷間英世(姫路大学、医学、研究者)

研究分担者 牛山道雄(京都教育大学、研究者)

研究協力者 大谷多加志 (光華女子大学、発達心理学、研究者)

清水 里美 (平安女学院大学短期大学部,発達心理学、研究者)

田中 駿 (京都国際社会福祉センター、発達心理学、特別支援教育)

全有耳(奈良教育大学、医学、研究者)

清水寬之(神戸学院大学、発達心理学、研究者)

Karri Silventoinen (ヘルシンキ大学、研究者)

石川素子(ヘルシンキ大学、研究者)

郷間安美子(京都国際社会福祉センター、公認心理士)

足立絵美(京都国際社会福祉センター、公認心理士)

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件(うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件)

1.著者名	4 . 巻
清水里美,大谷多加志,田中駿,原口喜充,鄉間英世	第22号
2 . 論文標題	5 . 発行年
現代の成人の発達に関する検討-新版K式発達検査標準化資料の経年変化に基づいて-	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
平安女学院大学研究年報	59-66
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4 . 巻
郷間英世	第2号.
2.論文標題	5 . 発行年
成人期の知的障害者の生活と課題-仕事、余暇、医療、結婚などについてQOLの視点から-	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
姫路大学健康・教育実践研究センター年報	35-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4.巻
郷間英世	Vol.38
2.論文標題	5 . 発行年
障害者と家族のライフストーリー()-自閉スペクトラム症を併せ持つ重度知的障害者とその家族へのインタビューを通して-	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
京都国際社会福祉センター紀要「発達・療育研究」	35-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
. #46	. 24
1 . 著者名	4.巻
郷間英世	,第6号
2.論文標題	5 . 発行年
子どもの発達研究 新版K式発達検査の開発を通して -	2023年
3.雑誌名 姫路大学看護学研究科論究	6.最初と最後の頁
X世紀八子'自成子'川 九行前門九	13 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	13 - 22 査読の有無 無 国際共著

1 - 著名名 田中泉、閉田安美子、井上和久、牛山店道、清水里美、落合利性、池田及美、加藤寿宏、翔岡英世 2 - 論文標題 初売の初期の概念形成・なぞなぞ課題の作成から・ 3 - 熱理の世界、研究の2023年		
田中県、規閣交美子、井上和久、牛山道館、清水里美、落合科性、池田友美、加藤寿宏、規限英世 2. 議女権題 5. 飛行年 2023年 3. 権誌名 第本の関学研究 6. 最初と最後の目 29-39	1.著者名	4 . 巻
2 : 第次種題		第34巻1号
3. 雑誌名 発達の7世界の戦争のでは、		
3. 雑誌名 発達の7世界の戦争のでは、		F 38/-/-
3 ・ 制起名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1 - 1,- 1
程義論文のDOI(デジタルオブジェクト選別子)	幼児の初期の概念形成-なぞなぞ課題の作成から-	2023年
程義論文のDOI(デジタルオブジェクト選別子)		
程義論文のDOI(デジタルオブジェクト選別子)	3 雑誌名	6 最初と最後の百
据報論文のDODI (デジタルオブジェクト講別子) なし		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが国難 日際共著 - 1 著者名 郷間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 給美 2 第2 第2 第2 第3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	光 達心理字研究	29-39
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが国難 日際共著 - 1 著者名 郷間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 給美 2 第2 第2 第2 第3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが国難 日際共著 - 1 著者名 郷間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 給美 2 第2 第2 第2 第3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが国難 日際共著 - 1 著者名 郷間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 給美 2 第2 第2 第2 第3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 著名名		
1 著名名 4 . 巻 2 2 2 3 . 瀬大平 世美・足立 絵美 2 2 . 輸文標題 3 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 4 . 巻 3 . 雅誌名 4 . 巻 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 4 . 巻 4 . 巻 3 . 雅誌名 4 . 巻 4 .	<i>A</i> 0	H
1 著名名 4 . 巻 2 2 2 3 . 瀬大平 世美・足立 絵美 2 2 . 輸文標題 3 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 4 . 巻 3 . 雅誌名 4 . 巻 3 . 雅誌名 3 . 雅誌名 4 . 巻 4 . 巻 3 . 雅誌名 4 . 巻 4 .		
1 - 著者名	· · · · · · =· ·	国際共者
#期間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 絵美 2 . 論文標題 現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 3 . 雑誌名 希達支援学研究(日本発達支援学会) 4 . 整	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
#期間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 絵美 2 . 論文標題 現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 3 . 雑誌名 希達支援学研究(日本発達支援学会) 4 . 整		
#期間 英世・田中 駿・清水 里美・足立 絵美 2 . 論文標題 現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 3 . 雑誌名 希達支援学研究(日本発達支援学会) 4 . 整	1 英字夕	A 类
2. 論文標題 現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 2022年 3. 雑誌名 発達支援学研究 (日本発達支援学会) 超談論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし 1. 著者名 郷間英世 2. 論文標題 郷間英世 2. 論文標題 郷間英世 2. 論文標題 郷間英世 2. 論文標題 郷間英世 3. 雑誌名 3. 雑誌名 3. 雑誌名 4. 巻 43 4. 巻 43 4. 巻 43 4. 差 43 5. 発行年 2022年 4. 巻 43 7. 一ブンアクセスとしている (また、その予定である) 4. 巻 43 5. 発行年 2022年 4. 巻 43 7. 一ブンアクセスとしている所述、式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究 (日本発達障害学会) 第監論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス オーブンアクセス オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1. 著者名 清水里美、郷間英世、他 2. 論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3. 雑誌名 平安女学院大学研究年報 5. 発行年 2022年 4. 巻 22 3. 雑誌名 第次便養、郷間英世、他 22 3. 雑誌名 第次便養、郷間英世、他 26 3. 雑誌名 第次程題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5. 発行年 2022年 5. 発行年 2022年 1. 養養の有無 第二 4. 巻 22 3. 雑誌名 第次保証 第次保証 第次保証 第次保証 第次保証 第次保証 第次保証 第次保証		_
現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69	郷間 英世・田平 駿・清水 里美・足立 絵美	2
現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69		
現代の子どもの発達の様相と変化 新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69 59-69	2.論文標題	5 . 発行年
3 ・雑誌名 発達支援学研究(日本発達支援学会)		
発達支援学研究(日本発達支援学会) 「おいって (デジタルオブジェクト識別子) ない	近100] C 000元年の1911日で名に、利成トル元年代目(303 C 2020 の信告化員作の比較から	2022 *+
発達支援学研究(日本発達支援学会) 「おいって (デジタルオブジェクト識別子) ない	1811	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著書名 郷間英世	3.雜誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著書名 郷間英世	発達支援学研究(日本発達支援学会)	59-69
# オープンアクセス		
# オープンアクセス		
# オープンアクセス	担事をかっ DOL / デンタル ナデン ター かロフン	大芸の大畑
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - 1 著者名 郷間英世 4 . 巻 43 5 . 飛行年 2022年 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 5 . 飛行年 2022年 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 6 . 最初と最後の頁 352-364	掲載論又のDUI(テンダルオフシェクト識別子)	貧読の有無
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	なし	無無
オープンアクセスとしている(また、その予定である)		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	オープンアクセス	国際 共菨
1 . 著者名 郷間英世	· · · · · · =· ·	
##間英世 43 2.論文標題 ##間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3.雑誌名 飛達障害研究(日本発達障害学会) 6.最初と最後の頁 第52-364 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1.著者名 清水里美、郷間英世、他、 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 4.巻 22 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 第59-66 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 4.巻 22 5.発行年 2022年 4.巻 22 4.巻 22 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66	オープファクセスとしている(また、ての予定である)	-
##間英世 43 2.論文標題 ##間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3.雑誌名 飛達障害研究(日本発達障害学会) 6.最初と最後の頁 第52-364 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1.著者名 清水里美、郷間英世、他、 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 4.巻 22 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 第59-66 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 4.巻 22 5.発行年 2022年 4.巻 22 4.巻 22 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66		
##間英世 43 2.論文標題 ##間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3.雑誌名 飛達障害研究(日本発達障害学会) 6.最初と最後の頁 第52-364 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1.著者名 清水里美、郷間英世、他、 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 4.巻 22 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 第59-66 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 4.巻 22 5.発行年 2022年 4.巻 22 4.巻 22 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66	1.著者名	4 . 巻
2 . 論文標題		
##閲英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名	郷間五世	
##閲英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名	鄉間英世	43
生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 6.最初と最後の頁 3.雑誌名 352-364 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 オープンアクセス 国際共著 1.著者名 清水里美、郷間英世、他、 4.巻 2.論文標題現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5.発行年2022年 3.雑誌名平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁59-66 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 オープンアクセス 国際共著		
3 . 雑誌名	2.論文標題	5.発行年
3 . 雑誌名	2.論文標題	5.発行年
発達障害研究(日本発達障害学会)	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・	5.発行年
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用	5 . 発行年 2022年
# カープンアクセス	2.論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3.雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
# カープンアクセス	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
# カープンアクセス	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
# カープンアクセス	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 6 . 最初と最後の頁 59-66 長載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 直読の有無 有	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・ 生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 22 2 2 2 2 2 3 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66 59-66 4 . 最初と最後の頁 59-66 5	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 22 2 2 2 2 2 3 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66 59-66 4 . 最初と最後の頁 59-66 5	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無
1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 4 . 巻 22 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 6 . 最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無
清水里美、郷間英世、他、 22 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無
清水里美、郷間英世、他、 22 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無
清水里美、郷間英世、他、 22 2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無
2.論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 5.発行年 2022年 3.雑誌名 平安女学院大学研究年報 6.最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著
現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 2022年 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 6 . 最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著
現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 2022年 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 6 . 最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著
現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 2022年 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 6 . 最初と最後の頁 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3. 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 59-66 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	2.論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3.雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 清水里美、郷間英世、他、	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 -
平安女学院大学研究年報 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年
平安女学院大学研究年報 59-66 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年
なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66
オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66
	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66
	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版K式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66
オーフンドクセスとい(いる(また そのうまである)	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) お前論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討 - 新版 K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66 査読の有無
·	2 . 論文標題 郷間英世、医療機関の発達外来における新版 K 式発達検査の利用を中心に、診断域下にある幼児・児童・生徒への教育支援に向けたアセスメントとその活用 3 . 雑誌名 発達障害研究(日本発達障害学会) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 清水里美、郷間英世、他、 2 . 論文標題 現代の成人の発達に関する検討・新版 K 式発達検査標準化資料の経年比較に基づいて 3 . 雑誌名 平安女学院大学研究年報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 352-364 査読の有無 国際共著 - 4 . 巻 22 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 59-66 査読の有無

田中級、郷間英世、他: 自閉症スペクトラム幼児の新版K式発達検査2020のDQの は数 37号 は数、発達療育。2022.1 3、2 . 論文標題 : 自閉症スペクトラム幼児の新版K式発達検査2001と新版K式発達検査2020のDQの比較 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 3-8 番組	
税達と療育研究 3-8 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 1. 著者名田中駿、郷間英世、他 4. 巻 81 2. 論文標題身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性 5. 発行年2022年 3. 雑誌名小児保健研究 6. 最初と最後の頁 53-58 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無有 オープンアクセス 国際共著 79 1. 著者名大谷多加志、郷間英世、他 4. 巻 79 2. 論文標題近午の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の比較 3. 雑誌名 5. 発行年2020年 2020年 2020	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
## オープンアクセス	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 田中駿、郷間英世、他 2 . 論文標題 身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性 3 . 雑誌名 小児保健研究 6 . 最初と最後の頁 53-58 掲載論文のDO1(デジタルオブジェクト識別子) なし カープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 5 . 発行年 2020年	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 田中駿、郷間英世、他 4 . 巻 81 2 . 論文標題 身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 小児保健研究 6 . 最初と最後の頁 53-58 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 有 オープンアクセス 大合多加志、郷間英世、他 国際共著 79 1 . 著者名 大合多加志、郷間英世、他 4 . 巻 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の比較 5 . 発行年 2020年 と2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	
田中駿、郷間英世、他 81 2 . 論文標題 身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名	
田中駿、郷間英世、他 81 2 . 論文標題 身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性 5 . 発行年 2022年 3 . 雑誌名 小児保健研究 6 . 最初と最後の頁 53-58 掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 4 . 巻 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較 1 . 最初と最後の頁	
身体模倣の正中線交差と社会的スキルの関係性2022年3.雑誌名 小児保健研究6.最初と最後の頁 53-58掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著 -1.著者名 大合多加志、郷間英世、他4.巻 792.論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較5.発行年 2020年3.雑誌名6.最初と最後の頁	
3 . 雑誌名	
小児保健研究53-58掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著 -1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他4 . 巻 792 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較 3 . 雑誌名	
なし有オープンアクセス国際共著オープンアクセスとしている(また、その予定である)-1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他4 . 巻 792 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁	
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 4 . 巻 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較 6 . 最初と最後の頁	
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 4 . 巻 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の比較 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	
1 . 著者名 大谷多加志、郷間英世、他 4 . 巻 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 比較 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	
大谷多加志、郷間英世、他 79 2 . 論文標題 近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 2020年 比較 6 . 最初と最後の頁	
近年の乳児の発達速度の変化 2000~2001年と2015~2019年における新版K 式発達検査2001の検査結果の 2020年 比較 3.雑誌名 6.最初と最後の頁	
3.雑誌名 6.最初と最後の頁	
小児保健研究 380 - 387	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	
なし	
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている (また、その予定である) -	
1.著者名 4.巻 田中駿、郷間英世、他 79 1. 著者名 79 1. 著者名 79 1. 著者名 79 1. 表表 79	
2.論文標題5.発行年幼児期から自動機初期の身体模倣の発達と男女差2020年	
3.雑誌名6.最初と最後の頁小児保健研究607 - 616	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	
物単編文のDD (アンタルオフシェクド 画が) す	
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	

1.著者名	4 . 巻
田中駿,郷間英世,他	2号
2. 論文標題	5 . 発行年
動作模倣課題の発達と適応年齢	2021年
BIT I KIMANACO / JULI CASTO T IN	2021
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
京都教育大学 総合教育臨床センター特別支援教育臨床実践拠点年報	1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	本誌の左仰
	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4.巻
大谷多加志,清水里美,郷間英世,大久保純一郎,清水寛之	30
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
2.論文標題	5 . 発行年
幼児におけるじゃんけんの勝敗判断に関する発達段階の評価	2019年
がした。 の の の の の の の	2019-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
発達心理学研究	142 - 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 3件/うち国際学会 2件)	
1. 発表者名	
郷間英世,全有耳	
7.1325 - 13 1	
2.発表標題	
新版K式発達検査の公刊と内容	
WILLIAM A INCENTION	
3.学会等名	
第64回日本小児神経学会学術集会	
第04四日举小元仲挺子云子祔荣云	
4.発表年	
2022年	
1.発表者名	
田中駿,鄉間英世,他	
2.発表標題	
新版K式発達検査2001と2020のDQの比較	
3. 学会等名	
第69回日本小児保健協会学術集会	
The second of th	

4.発表年 2022年

1.発表者名 田中駿,鄉間英世,他
2 . 発表標題 新版K式発達検査2020における自閉症スペクトラム幼児の発達特徴の予備的研究
3 . 学会等名 日本LD学会第31回大会
4 . 発表年 2022年
1.発表者名
2 . 発表標題 新版K式発達検査の理解と活用
3 . 学会等名 日本LD学会第31回大会大会企画シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年 2022年
1 . 発表者名 田中駿,清水寛之,清水里美,足立絵美,郷間 英世
2 . 発表標題 人間の発達曲線は何次式で表せるか-新版K式発達検査 2020の標準化資料の分析から-
3 . 学会等名 日本発達心理学会第34回大会
4 . 発表年 2023年
1 . 発表者名 Hideyo Goma, Yui Zen
2 . 発表標題 Developmental trends and changes in Japanese children, comparing assessment data from 1983 and 2020
3 . 学会等名 The World Association for Infant Mental Health 18th World Congress(国際学会)
4 . 発表年 2023年

1.発表者名 郷間英世
2 . 発表標題
新版K式発達検査2020の 改定作業の経過と公刊
3.学会等名
日本小児保健学会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名
郷間英世、清水里美
2.発表標題
新版K式発達検査2020-成り立ち・現在の役割・これから -
3.学会等名 日本臨床発達心理士会17回全国大会公開講演会(招待講演)
<u>4.発表年</u> 2021年
1 . 発表者名 田中駿、郷間英世、他、
2 . 発表標題 性差を考慮した幼児版社会性・行動評価尺度の開発 「クイズ」課題の適用年齢について
3.学会等名
日本小児保健学会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名
郷間英世
2.発表標題
新版K式発達検査2020を発達支援に活かす
3.学会等名 日本発達支援学会第3回大会、特別講演(招待講演)
4.発表年 2021年
_

1 . 発表者名 郷間英世・全有耳
2.発表標題 新版 K 式発達検査2020の公刊と内容
3.学会等名 日本小児神経学会
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 田中駿,郷間英世,他
2 . 発表標題 幼児の身体模倣の発達の追跡調査
3.学会等名 第67回日本保健協会学術集会
4 . 発表年 2020年
1.発表者名 田中駿、郷間英世
2.発表標題 ある自閉症児の発達の経過について K式とWISCの推移から
3.学会等名 第29回日本 L D学会
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 田中駿 , 郷間英世
2 . 発表標題 性差を考慮した幼児版社会性・行動評価尺度の開発 - 就学前児用社会的スキル尺度との関連について
3 . 学会等名 日本発達心理学会第32回研究大会
4 . 発表年 2021年

1.発表者名 清水里美,鄉間英世,他	
2 . 発表標題 現代の成人の発達に関する検討 新版 K 式発達検査2020年版標準化資料の分析から	
3 . 学会等名 日本発達心理学会第32回研究大会	
4 . 発表年 2021年	
1.発表者名 郷間英世、他	
2 . 発表標題 新版K式発達検査2020の改定作業の経過と公刊	
3 . 学会等名 第6&回日本保健協会学術集会	
4.発表年 2021年	
1.発表者名 Hideyo Goma, et al	
2 . 発表標題 Creation of a scale for the assessment of social and behavioral development in preschool childre	en
3.学会等名 国際知的障害・発達障害学会(国際学会)	
4 . 発表年 2019年	
〔図書〕 計4件	
1.著者名 鄉間英世、清水里美経著	4 . 発行年 2024年
2.出版社 ナカニシヤ出版	5.総ページ数 300
3.書名 新版 K 式発達検査による子どもの理解と発達支援	

1 . 著者名	4 . 発行年
郷間英世	2022年
2.出版社	5 . 総ページ数
ミネルヴァ書房	5
つ 妻々	
3 . 書名 季刊発達169号:新版K式発達検査をめぐって	
子刊光達109号・利放N式光達快量をめてする 	
1 . 著者名	4 . 発行年
鄉間英世監修 新版K式発達検査研究会編	2020年
2.出版社	5.総ページ数
京都国際社会福祉センター発達研究所	148
3 . 書名	
3 . 青石 新版K式発達検査2020解説書(理論と解釈)	
利MXNA先達快直2020時就首(连端C時外) 	
4	A 交流
1 . 著者名 新版K式発達検査研究会編	4 . 発行年 2020年
利放八八光连铁鱼切九云洞	20204
2. 出版社	5.総ページ数
京都国際社会福祉センター発達研究所	209
新版K式発達検査実施手引書	
	I
〔産業財産権〕	
(III / III /	
〔その他〕	

6 . 研究組織

	· 101 / C/NILINGO		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	牛山 道雄	京都教育大学・教育学部・教授	
研究分担者	(Ushiyama Michio)		
	(90397836)	(14302)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------